

## 第8回帯広市総合計画策定審議会第3専門部会 議事概要

1. 日 時 平成20年7月23日(水) 19:00~21:00

2. 場 所 市役所5階フロア会議室

### 3. 議事概要

#### (1) めざすまちの姿について

##### 【委員】

食糧の確保が問題となっている国を支援するために、規格外の農産物を活用できないか。

##### 【委員】

田園都市がどういうものか特に外から来た人には分かりにくい。より具体的な表現も必要ではないか。例えば、自由競争の中で生きていくことが出来る農業者を育成するなど、田園都市の意味を鮮明にした方がよいのではないか。

##### 【委員】

「田園都市」と聞くと自然があふれている様子を想像するが、具体的なものがイメージしにくいのが現実。

##### 【部会長】

「田園都市」という文言はよいと思うが、その意味をどう的確に伝えるかということではないか。

##### 【委員】

田園都市のイメージは、本当の自然というよりも人間が作った自然というイメージである。

##### 【委員】

閉塞間の中から一步踏み出すような元気の良いさを表す文言があったほうが良いのではないか。例えば四期総、五期総にある「北のフロンティア」は良い表現であると思う。

##### 【委員】

開拓の第1世代は、いつか故郷に錦を飾ろうという意識だったと思うが、今はそ

ういう意識はなくなっている。自分のまちだという思いが文言で表現されたら良いと思う。

**【部会長】**

「フロンティア」という表現は、どちらかという帯広市の中のことだけを捉えた意味合いに感じられる。これからの10年は積極的に外に向けた取り組みをすすめていくという意気込みを表現できないものか。

**【委員】**

地に足をつけた視点と、外に向けた視点の両方あったほうが良いと思う。

**(2) めざすまちの姿(分野)について**

**【委員】**

8つの区分の仕方だが、防災と地域づくり、福祉と教育は密接な関係があり一体にするべきではないか。

**【委員】**

記載順序も子育てと教育が近くにあった方が分かりやすいのではないか。

**【部会長】**

8つの区分の仕方はよいと思うが、記載順序は少し検討を要するのではないか。

**【委員】**

教育には、学ばせるのではなく自ら学ぶものだという視点を入れてはどうか。

**【委員】**

教育基本法の改正を踏まえて、生涯学習の位置付けを考える必要があるのではないか。

**【委員】**

教育基本法では、学習成果の地域への還元や家庭教育、地域との連携という視点が入ってきている。

**【委員】**

観光について、もてなしの心で受け入れる体制をつくっていくことを入れられないか。また、北の屋台では、地元の食材を活かした料理を提供し積極的に発信している。こうした取り組みをもっと知ってもらえないか。川西の大平原交流センターでの

直売所の取り組みも、たくさんの人に知ってもらう必要があると思う。

【部会長】

中心市街地の必要性をどのように考えたらよいか。

【委員】

中心市街地はまちの顔であり、さびれて良いのかということではないか。

【委員】

下水道整備がすすんでいない地域も残されているがどうにかならないものか。

【委員】

未整備の地域にもできるだけ目を向けることは必要だと思うが、残りの地域を整備するのに大きなエネルギーを費やすという面もある。

【委員】

食料基地という十勝の特色を活かし産業振興をすすめていくということをもっと強く示すべきではないか。

【委員】

地震以外の災害についての対応はどう考えるべきなのか。

【委員】

堤防に弱い部分あることやガス管の老朽化などが心配である。

【委員】

上下水道に問題が生じることが、一番市民生活に影響を与えるのではないか。こうしたライフラインの耐震化も必要である。

【委員】

これまで整備してきたインフラを計画的に維持修繕していくことが大切である。

【部会長】

教育の理想は一人ひとりに応じた教育を行うことであり、習熟度別の授業も一つの方法ではないか。集団の平均点を上げるという発想ではなく、底上げを行う教育が必要だと思う。

以上